

5 友達といっしょに遊びに行く

POINT 1 友達を誘うとき、どんなことに気をつけますか。



POINT 1 のねらいは、押しつけずに友達を誘うにはどうしたらいいかについて学習者に考えてもらうことです。

①予定が決まっているとき

〔表現例〕

- ・「お祭り、好き？ 今週の日曜日、浅草でお祭りがあるんだけど、いっしょに行かない？」
- ・「今週の日曜日、暇？ 浅草でお祭りがあるんだけど、いっしょにどう？」

イベントやすでに決まっていることについて相手を誘うときは、日程や場所などの情報を相手に提示しながら誘います。

②予定が決まっていないとき

〔表現例〕

- ・「今週の日曜日、予定、ある？ 浅草か原宿に行ってみたいんだけど、いっしょに行かない？」
- ・「今月の週末、暇な日、ある？ どこか遊びに行かない？」

特に予定が決まっていないときは、相手に配慮して、断る余地や選択権を与えるような聞き方をするといいでしょう。

POINT 2 相手の反応に気をつけて、自分のしたいことや考えを伝えたいとき、どうしたらいいですか。



POINT 2 のねらいは、自分の希望や意見を言うとき、相手に配慮することの大切さを理解してもらい、どのように伝えたらよいかを考えてもらうことです。

- 学習者の会話を聞くと、相手が乗り気でないにも関わらず、自分の主張を一方向的に主張しているように聞こえる会話に出会います。この原因の1つに、相手の反応を見る余裕がないこと、相手の曖昧な断りに

気づいていないことなどが挙げられます。また、本人は一方的に主張しているつもりはなくても、「よかったら」「都合が合えば」などの表現が足りないことで、一方的に主張しているように聞こえてしまう場合があります。まず、相手のしたいことを聞き、自分のしたいことを伝えるときはやわらかい表現を使うように注意を促すといいでしょ。

練習1 **POINT 2** の **①** と **②** に気をつけて、友達と次のことを決めましょう。

- 日本語のレベルに応じて、教科書に挙げた項目以外にも、決める項目を追加するといいでしょ。
①の追加例)「プレゼントの予算」「プレゼントを買いに行く場所」など

POINT 3 相手の反応を理解することができますか。



POINT 3 のねらいは、次の2点です。

- 学習者にとってわかりにくい間接的な断り方について理解してもらうこと
- 相手が断っているかどうかかわからないとき、どのように確認したらよいかについて考えてもらうこと

① 相手が断っているかどうかわかりますか。

答え：a、b、c

- a、b、c はいずれも直接的な表現を避け、間接的に断っています。
- cのように「いい」という言葉を聞くと、「OK」の意味と勘違いをする学習者が多いので、注意が必要です。また、「んー、そうだね……」のように言葉を濁す表現や「また今度」などの表現も、断りとして使われる場合があります。よく使われる断り表現を取り上げるといいでしょう。
- 断り方は人によってさまざまです。日本人が実際にどのような断り方をしているかについて知るため、活きた日本語に触れる機会を作ると表現の幅が広がります。

[活動例]

- **練習3** を日本人といっしょに行い、自分の表現と日本人の表現を比べる。(宿題にしてもよい)
- ドラマや漫画などから、間接的に断っているシーンを取り出し、紹介する。

練習2 次の会話を聞いて、答えましょう。

別冊 (p. 4) に CD 音声スクリプトがあります。

- ① [○] んー、特に……。
- ② [○] 私、泳げないんだよね。
- ③ [○] 行きたいけど、お金がないなあ……。
- ④ [×] 夜だったらいいよ。
- ⑤ [○] 今日はいいや。

練習3 友達の誘いをやわらかく断ってみましょう。

- **POINT 2**、**POINT 3** を参考に練習しましょう。
- 日本人といっしょに練習し、断り方を比べてみるといいでしょう。クラスに日本人がいない場合は宿題にし、日本人がどのような断り表現を使ったかを書いてくるようにするといいと思います。

2 相手が断っているかどうか分からないとき、どうしますか。

練習4 クラスメイトとペアになって、誘いと断りの練習をしましょう。

- **POINT 1** ~ **POINT 3** のまとめです。誘い方については **POINT 1**、**POINT 2** を参考にしてください。
- まず、A さんが何に誘うかを決めます。このとき、実際に遊びに行くことを想定し、「映画を見る」ではなく、「〇〇の映画を××で見る」のように具体的に考えてもらいます。また、B さんは、誘いをすぐに断るのではなく、「どんな映画?」「何時から?」などのようにいくつか質問をしてから断ってもらうようにすると、より自然なインターアクションになります。

POINT 4 決めたことを確認するとき、どうしますか。



POINT 4 のねらいは、話しあって決めたことを確認することの大切さに気づいてもらい、必要な表現を学習することです。

練習5 あなたは友達と次の約束をしました。友達と決めたことを確認しましょう。

- **POINT 4** の表現例を参考に、決めたことを確認する練習をします。
- 確認の部分だけ練習するのではなく、「【 】に書かれたイベント（例：【花火を見に行く】）に誘う」⇒「話しあって決める」⇒「確認する」という流れで総合的に練習することもできます。

POINT 5 遊びに行ったあと、気持ちを伝えるとき、どうしますか。



POINT 5 のねらいは、今後も関係を継続するために、遊びに行ったあとに連絡をすることの大切さを理解してもらい、気持ちの伝え方を学習することです。

1 どんな方法で気持ちを伝えたいと思いますか。話しあってみましょう。

友達に気持ちを伝える場合は、簡単でいいので早く連絡することが大切です。最近では、携帯電話のメールや SNS がよく使われているようです。

2 いつ気持ちを伝えたいですか。話しあってみましょう。

日帰りで遊びに行ったときは、その日のうちに連絡をするといいでしょう。早ければ早いほどいいと思います。

3 何を伝えたらいいと思いますか。

答え：②が適切

①のメールは、具体的な記述がないので、相手に気持ちが伝わりません。②のメールのように、1つでいいので具体的なエピソードを入れましょう。

練習6 友達にお礼のメールを書いてみましょう。

最近、友達と遊びに行ったことを思い出して、お礼のメールを書く練習をします。最近、友達と出かけていないという場合は、「いっしょに食事をした」「いっしょにスーパーで買い物をした」など、いっしょに何かをしたことを思い出して書くといいでしょう。クラスメートにお礼のメールを書き、お互いに読み合おうと楽しく活動ができていいと思います。